

## ■ (74) 「素粒子」って、どんな記事？

2014. 4. 4

「素粒子」と聞いて、理科系の人なら「物質を構成する最小の単位」などと答えるのでしょうか。大辞泉（小学館）には、それとともに〈朝日新聞の夕刊1面に掲載されているコラム〉と出ていたので、びっくりしました。朝日新聞社史によりますと、1949年に東京本社で夕刊が発刊されたとき、1面の下段に「三角点」という社会風刺コラムが設けられ、1959年4月1日に名称を変えて「素粒子」となったそうです。50年以上も続くコラムですので、辞典に載るだけの価値があります。

私は「素粒子」というタイトルには、細やかな視点、物事の根幹・本質を短くまとめるという意味が込められているのではと思います。あるいは、「素・粒の人」という意味なのでしょうか。朝日新聞社史には〈宇宙の根源をなす小さな素粒子のつぶやきであった〉として、〈宇宙にひろげた大ぶろしきはコワくないが、極小世界が怒り出したら、もういけない。三角点改め、素粒子で出直す所以〉という初日の書き出しが紹介されています。

「素粒子」は3項目を各13字×4行、計12行という短い記事で、小さくて気がつかない人もいるかもしれませんが、日々のニュースを、「寸鉄人を刺す」の意気込みで切り込むこともあります。かつてこの「素粒子」の執筆を10年以上担当した日比野和幸さんは、著書『新聞のヘソ』（晶文社）のまえがきで、次のように書いています。〈そんな小さな受け皿に、国際情勢から政治、経済、学術、文化、内外の森羅万象をもりつけようというのだから、ありようは手品に似る。空おそろしい、天をおそれざる所業というべきかもしれない〉。そして、本文の冒頭には、〈「素粒子」の一つの役目は、その日その日のニュースの要約。御用とお急ぎのお方に、ああそんなこともあったのかと気付いてもらうためだ。(略) そのニュースをどう見るのか、「素粒子」の視覚、視点を示さなければならない。「素粒子」としてはこう判断し、こう解釈するが、いかがなものか。こんな見方もできはしないかと、問題を提起してみる〉とあります。

「素粒子」では前日の夕刊、当日の朝刊をどう読んだかが試されます。私も慌てて朝刊を読み直すことがあります。それが「素粒子」を読む最大のメリットです。ぜひ、子どもたちにも読むことを勧めてほしいものです。究極の要約と意見を入れて、「私の素粒子」を書かせてもよいでしょう。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)